

# 中津江村報

【第38号】

発行所  
編集発行人

大分・日田・中津江村

川津一人

(写真説明)  
一九六四年の  
初日の出

## 1964 賀正 元旦

### 年頭にあたり

村長 児塔 務



村民の皆さん  
明けましてお目出度うございませう。

昨年は国の内外で、重大な事件や問題が相ついで起こり、まことにあわただしい一年でありましたが、年改まりました今年も又、新たな課題の前に、身心を健やかにして、真剣に取り組み、よく覚悟をいたしてまいります。

どうか村民の皆さんも、施政の方針に十分な御理解をよせて頂いて、倍旧の御支援を賜りますよう、年頭に当って改めてお願い申し上げます。

### 新春のご挨拶

議長 矢原 金吾



すなわち、ダム建設後の中津江村が、産業、経済、教育、社会、文化等の各方面において、よりよき発展と前進をするための、立村上の諸計画の実現に、全力を傾けて努力する覚悟であります。

この中津江の未来像を現実のものにするためには、今、この中津江に生き、今この村を背負っている私ども村民一同が、共に手をたぎさえ、力を合せて、次の世代に残す立派な遺産を、ここに作りあげておこなねばならぬと考えます。私もみんなの手によつて、現に今、大きく中津江の歴史が書きかえられようとして、いる大切な時期であります。一切の行きがかりを捨ててどこまでも前向きな姿勢をくずさずに、前進を続けたいものであります。

明けまして、誠に御目度うございませう。

村民各位におかれましては、御健勝にて御多幸な、新春をお迎えのことと存じ心からお喜び申し上げます。

昨年は、選挙に次ぐ選挙と何にかと急がしく、夢の様に過ぎ各種の事業も思ふ半分の成果もえられなかつたことは、誠に汗顔のいたりでございませう。

しかし野田小学校の新築落成をはじめ、若くなつた村議会議員各位をはじめ、新助役及び新行政機構並びに事務分掌により、役場の内容が一躍前進近代化し能力もあがりその実績を著々とあげていること又ダム問題も種々と難点は残りながらも、県道その他の道路も、少しづつでも前進し、八女一小国線、菊地一鯛生線の改良も着々と進んでいることは、これまた誠に喜ばしい次第でございます。しかしながら水没者が次々に他村に移住されつつあることは、誠に残念なことにございませう。

### 年頭のごあいさつ

教育長 長谷部 秀丸



へき地教育の解消のために  
新しい年のはじめに等つて、へき地の教育の根本に横たわる問題を、提起してみたいと思ひます。

近來ようやく都市中心的教育から、へき地の教育施策が進められてきたことは、当然のことながら、結構なことであり、県教委も本気で、へき地教育の振興に取り組みの構えを見せはじめたようでありませう。しかし抜本的な施策というには、程遠いものがあると思ひませう。

今更くりかえすまでもなく、教育民主化の基本問題は、教育の機会を、すべての人に平等に与えることである。

あり、教育の地域格差を是正していくことであります。この教育の機会均等の思想からも、必然にへき地の教育振興が問題になつてくるわけですが、はたして、どのような対策が国や県で考えられているのでしょうか。数年来の経済の高度成長に伴つて、大都市の人口集中、大企業コンビナートの拡大によつて、経済の地域格差は目立つて甚だしくなつてきております。この格差を正すために政府は、全国に十三の新産業都市を指定して地域開発を進め、御承知のように、大分、鶴崎地区も、その指定を受けたわけでありませう。そして、この地域に大規模な工場地帯が成立して、周辺の住民に有利な就職機会を提供して、所得の増大

## 謹賀新年

1964年元旦

中津江村議会一同  
中村役場職員一同

此の点村行政の一端を担ふ私達はできるだけ努力し生活の原動力、資源の確保と暮しよ、生活環境を一日も早く建設し、水没者各位の自覚をうながし、当村内に永住していただくよう願ひ致す次第でございます。

今年、ダム建設の問題の解決、県道の改修並びに補修、山村農業発展振興計画としての農山村道の開発又は低所得者に対する国民健康保険税の負担の軽減等努力を重ねねばならないことが、山積致してまいります。

私達は努力と精進に心がけ、村民各位と共に手を取りあつて、村民の福祉と村政の発展の為に全力を尽くしたいと存じます。なにとぞ尚一層の御指導御鞭撻を御協力をいただきまして、歩一歩づつでも前進し住みよい、文化度の高い、中津江村の建設の為に努力致したいと存じます。

最後に各位の御多幸と御健康をお祈り致しまして、新年のご挨拶と致します。

が約束されることになりませう。

しかしながら、その中心から遠くはなれた、日の当らぬ背後地帯にある中津江のような県境のへき地は、直接には何らの恩恵にも浴さぬもののように考えられます。

むしろ反対に、多数の若い労働力と、教育を受けた人材を、それらの地域に供給するだけの役割りを負わされているのです。

このことは非常に重大な問題であり、つねに不利な立場におかれてきた農山村が、それらの地域に送り出した労働力や人材の養成に投入した費用というものの対して、それを還元する何らかの方策が講ぜられるべきであらうと思ひます。

教育資本の無償提供という形が現れているのです。この不合理を調整するために、国も、県も、一歩を進めた積極的な施策を計画にのせて欲しいものである。

# 追加予算などを議決

## 才七回臨時村議会

才七回臨時村議会が、さる十二月二十三日午前十時役場会議室で議員十一名が出席し開会された。

提案された議案は、中津江村税条例の一部改正など、六議案が提案され、議案は、いずれも原案のとおり可決され午後一時閉会された。

十二月二十三日午前十時

▲ 中津江村国民健康保険 税条例の一部改正については、さきに低所得者に対する減税措置による条例の改正である。

▼ 中津江村国民健康保険 条例の一部改正については、老人福祉法による、養護老人ホームまたは、特別養護老人ホームに収容されている者で、村長が当該施設の見解をきいて、国民健康保険の被保険者としていないという改正である。

▼ ダム対策委員会委員選任については、今までのダム対策委員が、十二月で任期満了したため、つぎの者を任命するために、議会に同意を求めたものである。村議会議員の職にあるもの

永瀬 勇、齊藤隆一、矢原金吉、永瀬勇雄、長谷部直徹、川辺 弘、武原芳郎、渡辺新助、川良 停、川野

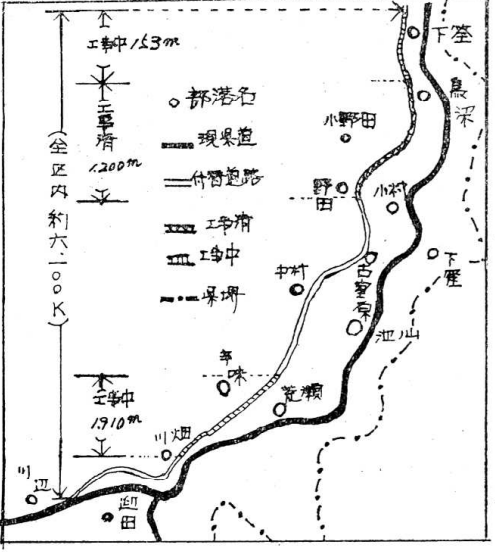
# 付替県道工事始まる

## 川畑部落で起工式終る

昨年十二月十五日、栃原工区は三工区で、請負者は福岡の新築建設株式会社、と福岡の古賀組、大分の佐藤組の三社で、三月末まで延長三、二六三米となり、この道路の工事により、

この日は、村、地元民、建設省などの多数の参列のもとに、付替県道の現地に於いて、工事関係者のクワ入れ式に始まり厳粛且つ盛大に挙行された。

こんどの道路は、栃原上方から荒瀬の上方面の一、九一〇米、工費約七、五〇〇万円、中員六、五米で



▼ 徒然草に、すべていとも知らぬ道の物語りしたる、かた腹いたく、聞きにくく、と一節がある。

▼ 去年の年のせも押し追った土曜の午後、八所部落で一日役場(移動役場)が開かれた。

その時役場側から、課長係長など、それぞれ受持の仕事内容について説明したのであるが、その時の反省会の中で、これはおそらく八所部落に限ったことではないだろうが、部落の人の質問が非常に少なかったこと、行政に対する問題意識が低いのではないかと、ということがあった。

▼ 自分の知らないことを自分で知る。解らない所が解る。このことは、実際に

▼ 最初は一寸した行政への無関心が、又報告の怠慢が時間の去つた今では、両者を大きく引き離したのではないだろうか。

しかし、村民として、行政に関心を示しても、行政側の報告がなされれば、やがては無感心になろうし、

▼ 本村も広報活動を始めて、四回目の新春を迎えたわけである。

新しい方法として、一日の役場も開かれつつある。この機会に、村民としても正しい知識を修得してほしいものだし、行政側も、報告の必要性について、研究を重ねることを望みたい。

▼ 別掲のような、「一日役場」も、今年も、今年こそは、と張りきって、よい村づくりをして、よい年にしようというハツスルすることになります。

▼ 別掲のような、「一日役場」も、今年も、今年こそは、と張りきって、よい村づくりをして、よい年にしようというハツスルすることになります。

# 議員のことば



村民の皆様、あけましておめでとうございます。皆様御健で、良き新年をお迎えになつたこと、存じます。

昨年四月の選挙には、皆さんの絶大な御協力によりまして当選させていただきましたことを、深く感謝いたします。

もとより、浅学非才なる私でありますが、先輩各位の御指導と、皆様方の御支援

# 渡辺親助

を得まして、村政のため微力ながら努力したいと存じております。

私がいまさら申し上げるまでもなく、村産業の発展は交通の整備なくしてとうてい望めないといつて過言ではないと信じます。

道路の悪いため、農林産物の搬出、飼料、肥料の運搬など、それについてやすらぎ、時間など年間を通じ大変なものになると思いますが、いかに道路網の計画をして、その土地の地主のかた、ならびに、地元のかたの御協力がなければ決して、できるものではありません。

# 婦人会に寄附

昨年九月の老人の日に、催されました、敬老会のさい、本村川辺の原部義松氏が川辺婦人会へ一万円を、寄附された。

# 優勝を目ざして

## 郡駅伝に猛練習

毎年日田郡スポーツの花として、全部の関心を集めている日田郡駅伝競走が一月十二日、六区間、六六、六キロにおよび上津江一夫ヶ瀬間でおこなわれる中津江代表チームは今まで七回おこなわれた中で、才三回より連続五回優勝し「駅伝中津江」の名を高くしている。

過去五回の優勝の中で全を、大山、前津江チームの間を、優勝した。結果は、反面、優勝おぼつかない、加えて中津江はチーム一のベテラン合谷幸生といわれ、苦しい戦いをし、選手が結婚式のため出場できなかったこともたびたびで、昨年、川辺、片村と、きず、作戦も全く苦しかつ、優勝である。昨年は大山の作戦の失敗にたすけられた

合谷幸生 出場六回

渡辺辰巳 出場四回

吉田伸一 初出場

長谷部和信 出場三回

渡辺 勇 出場三回

財津亀久生 出場五回

渡辺征吾 出場一回

# 八所部落で

## 一日役場開かれる

去る昭和三十八年十一月三日(土曜日午後一時)八所部落で開かれた、移動役場(一日役場)は、雪ふぶきの中、悪天候にもまけじと、部落民五十名の参加があった。

この日は役場から、助役課長、各係長等が出席しそれぞれの部門別の説明があった。その後、部落民からの質疑に対しては、担当係からの詳しい応答を行い、午後五時ごろ閉所された。

今後、このように一日役場を開き、ふだん村民みなさん方が、疑問に思っている点、考えている事など大いに批判をおおきたいと計画している。

村民みなさんの積極的な働きかけを期待しています

「一日役場プログラム」

1. 開会式
2. 各係長等による説明
3. 各係長等による説明
4. 質疑応答
5. 閉会式

# 想

## よしなしごと

その意味は「何事も、よく知らない道のことを話して聞かせる」といふことである。その意味は「何事も、よく知らない道のことを話して聞かせる」といふことである。その意味は「何事も、よく知らない道のことを話して聞かせる」といふことである。

▼ 村民が行政に判断を下す機会(選挙)が現在までいくどかあったが、その時村民は行政上の問題点を、どの程度に知っていたのだろうか。

又行政機関は、村民に対して行政の報告をどれほど行つたのだろうか。

▼ 本村も広報活動を始めて、四回目の新春を迎えたわけである。

新しい方法として、一日の役場も開かれつつある。この機会に、村民としても正しい知識を修得してほしいものだし、行政側も、報告の必要性について、研究を重ねることを望みたい。

▼ 別掲のような、「一日役場」も、今年も、今年こそは、と張りきって、よい村づくりをして、よい年にしようというハツスルすることになります。

# 編集室

あけまして、先づはおめでとございます。元旦ともなれば、決まり文句ながら、やはりよい言葉です。一年の苦勞の垢を洗いおとし、サツパリした気分でおめでたい年を祝福する。日本に生れた、日本人の喜びです。

▼ さて、今年はどうな年が来るでしょうか。と、つい書いてしまいました。が、ほんとうは、どんな年にするかは、われわれの意志によって決めてゆかねばならぬと思ひます。一年の計は元旦にありです。この一年を、よい年にするために、大いに頑張ろうではありませんか。

▼ 役場も、今年こそは、と張りきって、よい村づくりをして、よい年にしようというハツスルすることになります。